

## 事業実績報告書

様式2  
(2018年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-46	講座名	シンポジウム「海のプラスチックごみと食品ロス」
記載日	2018/12/8	団体名・企業名	2 R 推進実行委員会
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>ごみ非常事態宣言20周年となり、当時、「命を思いやる想像力」をもってライフスタイルを見直してほしいという藤前干潟を守った市民の「思い」を次世代へ伝えると共に、最近注目されている問題である「プラスチックによる海洋汚染」の第一人者である高田教授による特別講演や、「食品ロス」について学ぶシンポジウムを開催する。</p> <p>また、これまで2 R 推進実行委員会の取組みの成果と課題を市民に報告し、若者と未来の環境について議論する。</p>			
〈写真添付スペース(1~2点)〉			
			
※写真1の説明		※写真2の説明	
2018年12月8日		2018年12月8日	
高田教授による特別講演の様子		公開討論会の様子	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>・「プラスチックごみによる海洋汚染」と「食品ロス」の重要性について学ぶことで、日常生活の中で「レジ袋」を始めとする使い捨てプラスチックを減らす、食品を無駄にしないといったライフスタイルに変化していくことを目的に本講座を開講したが、受講者の反応から、その目的を達成できたと思う。「プラスチックによる海洋汚染」の第一人者である高田教授による特別講演については、最新の研究や情報を知ることができ大変有意義なものであった。シンポジウムにご参加いただいた方から家族や周囲の方々へ、どのように行動すればよいかなど本シンポジウムで学んだ内容を広く波及していただくことを期待す</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)			
<p>・ワタリドリの胃の中にプラスチックごみがあるのを見て、思った以上に自分の知らないところで動物達への被害が大きいことに衝撃だった。</p> <p>・若い学生が真剣に自然の循環を考えていることを知り、少し希望がもてる気がした。</p> <p>・素直な意見がぶつかり合う討論会は見ごたえがあった。</p> <p>・プラスチックが及ぼす影響を改めて感じた。今後はできることから取り組んでいきたい</p>			